

内面を表出させた文章をエビデンスとすれば、「主体的に学習に取り組む態度」も客観的に評価が可能

早稲田大学教職大学院 教授
田中博之

本誌読者モニターへのアンケートで、学習評価の課題として上位に挙げた「教員による評価の差」や「主体的に学習に取り組む態度の評価方法」は、どうすれば解決できるのだろうか。全国各地で学習評価に関する研修会の講師を務める早稲田大学の田中博之教授に、各校の実践を支援してきた経験と自身の研究を基に、望ましい学習評価の一案を提示してもらった。



たなか・ひろゆき 専門は教育工学、教育方法学。大阪大学人間科学部助手、大阪教育大学助教授、教授を経て、2009年度から現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員（2007～2019年）。著書の『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き 学ぶ意欲がぐんぐん伸びる評価の仕掛け』（教育開発研究所、2020年）のウェブサイト*から、学習評価マネジメントの資料がダウンロード可能。

学習評価における課題

評定に結びつく客観性をもつように担保するのか

——全国の先生方とお話している中でどのような課題を感じていますか。

田中 多くの先生方は、指導と評価を一体化し、子どもの学習改善に資するという趣旨で、学習評価のあり方が改善されたこと（図1）は理解されています。また、観点別学習状況の評価のうち、「知識・技能」や「思考・判断・表現」は、これまでの方法を応用することで評価できるでしょう。

研修会で課題に挙がるのは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価です。評価の側面の2軸となる「粘り

強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」（図2）を見取り、評定に結びつく評価を行うのは、ほとんどの先生が初めての経験で、これから評価方法を確立させていくものです。

挙手の回数や提出物の状況といった一時的に表出された場面のみで評価せず、自分の学習状況をメタ認知（巻末のキーワード解説参照）しながら、粘り強く自己調整をしているかをどのように見取ればよいのか。また、学力上位層は、あまり粘り強く取り組まなくても授業を理解するので、そうした子どもの学習態度をどのように評価すればよいのかなど、先生方の悩みは尽きません。国立教

育政策研究所から出された学習評価に関する参考資料がよりどころになりますが、100ページ以上ある教科が多く、読み解くのは大変です。

——具体的にはどういったことが課題になるのでしょうか。

田中 これまでのように、授業中の様子や振り返りシートで子どもの学習過程を見取る定性評価のみでは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は難しいかもしれません。さらに、評定に結びつけるためには、授業を進めながらクラス全員を見取り、さらにエビデンスを残す工夫が必要です。評価の結果をABCの3段階で示すための判断基準（評価基準）も求められます。

そうした課題を踏まえると、評定に結びつける学習評価は、レポートや振り返りシートなど、エビデンスとして残せる文章を対象にしたループ

図1 学習評価のあり方の主な改善方針

- ① 観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理する。
- ② 育成を図る資質・能力の中で、「学びに向かう力、人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、個人内評価等を通じて見取部分があることに留意する。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」については、各教科等の観点の趣旨に照らし、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

※田中教授の提供資料を基に編集部で作成。

* ウェブサイトのURL <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp/bookstore/products/detail/767>

リックを使って行い、授業中の見取りや子どもとの面談などを組み合わせるのが適切ではないでしょうか(図3)。

ルーブリックによる評価の方法

教員間でのぶれを防ぎ、説明責任も果たせる

—ルーブリックによる評価には、こういった利点があるのでしょうか。

田中 ルーブリックは、評価規準をレベル別に整理した判断基準の一覧表です。観点の設定の仕方次第で、多様な資質・能力の評価の質的な評価を、量的な評価に変換できます。

ルーブリックを共有すれば判断基準を統一できるため、教員による評価のぶれを防ぐことができます。さらに、エビデンスと判断基準が明確ですから、子どもや保護者への説明責任も果たせます。ABCの3段階でルーブリックを作成すれば、評定をつけるための総括もしやすいでしょう。

—ルーブリックによる評価の具体的な方法を教えてください。

田中 評価対象は、単元のまとめに書くレポートや振り返りシート、ノートなど、文章として残るのがよいでしょう。理科では実験のレポート、図画工作や美術では制作した作品の解説文などが考えられます。

ただし、単なる感想では文章中に子どもの内面は表れませんから、書き方を指導する必要があります。習得した知識・技能は何か、分からなかった場合にどんな工夫をしたか、習得した知識・技能を今後どう生かしたいかなど、子どもが学習の過程を書けるように書き方を説明したり、記入項目を示したりします。

評価の観点は、各教科の学習指導要領の解説に学年ごとや分野ごとに記されていますから、それを基にルーブリックを作成します。例として、

図2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ



①と②の2つの側面から評価する

① 粘り強い取り組みを行おうとする側面

知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けて、粘り強く取り組みを行おうとする側面のこと。

② 自らの学習を調整しようとする側面

①を行う中で、自らの学習状況を調整し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のこと。子どもがそれを主体的に進められるよう、自己評価・他者評価の場を設けることが重要。

※文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」を基に編集部で作成。

図3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の考え方

- ・説明責任を果たし、客観性を担保できるように、エビデンスが残るもの(例:レポートや振り返りシート、ノート、教科新聞)を評価対象にし、判断基準を明示したルーブリックで評価する。
- ・ルーブリックによる評価は、年間の全単元で実施するのではなく、各学期に1回程度ずつ、重点単元において単元のまとまりごとに実施する。
- ・振り返りシートなどの文章を中心としたルーブリックによる評価と、授業中の行動観察や面談による評価を適宜組み合わせる。
- ・授業中の行動観察は、評価がCになりそうな子どもを中心に行う。
- ・C評価をつけた子どもには、学習改善へ向けた手立てを実践する。
- ・ルーブリックは子どもに事前に提示し、観点を明示した上で文章を書かせるようにする。
- ・文章を対象に評価を行う場合は、書くことが苦手な子どもへの合理的配慮を行う。

※田中教授の提供資料を基に編集部で作成。

小学5年生の算数科「測定値の平均」で、単元の最後に課した「算数新聞」のルーブリックをP.6の図4に示しました。単元を通して学んだことや今後の展望を、他者に伝える新聞形式でまとめる課題です。評価の観点は、学習指導要領の解説に示された目標に沿って、「解法のメタ認知」「創意工夫」「生活への応用」の3つとしました。判断基準は、例えば、「創意工夫」では、説明の内容が、学習内容の整理のみであればC、多様な例題を用いていればB、多様な観点で説明していればAと設定しています。—判断基準を明文化しても、教員によって捉え方が異なる場合があるのではないのでしょうか。

田中 AとB、BとCの境はあいま

いになりやすので、教員間でのすり合わせが必要です。例えば、複数の教員が同じルーブリックで10人分の評価をつけ、その結果を見せ合います。そして、評価が食い違ったものは話し合い、どちらの評価にするかの合意を取っておきます。そうすれば各自で評価する際にも、評価のぶれを最小限に抑えることができるでしょう。—ルーブリックは作成に時間や手間がかかって大変そうです。

田中 確かにその通りですし、先生方はルーブリックの作成に慣れていません。まずは、小学校では一部の教科、中学校では教科ごとに、学期に1回程度で十分です。特に、「主体的・対話的で深い学び」に力を入れたい単元で行うと、子どもの学習態度の変

図4 単元のまとめの課題でのルーブリック(例) 小学5年生 算数科「測定値の平均」

「主体的に学習に取り組む態度」
の評価の観点

- 学習目標をしっかりと書けている。
- 間違いの修正や書き直しができている。
- 友だちとの対話や交流を学びに生かしている。
- もっとよい学び方はないかを考えた。
- 学習の計画や見通しを持って取り組んだ。
- 考えや文章、作品を推敲したり改善したりした。
- 間違えたり失敗したりしても粘り強く取り組んだ。
- まとめと振り返りをしっかりと書けている。

小学5年生 算数科の「主体的に学習に取り組む態度」の目標(小学校学習指導要領[平成29年告示]解説 算数編より)
数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

● 単元のまとめの課題 小学5年生 算数科「測定値の平均」での「算数新聞」の作成

【課題の内容】「測定値の平均」の単元のまとめとして、単元で学習した内容を新聞形式でA4判1枚にまとめる。

【事前指導】書く内容について、次の6つを示した。①分かったこと、②できるようになったこと、③考え方のよさ、よい考え方(アイテム)、④生活の中に生かせそうなこと、⑤今までに習ったことで似ていること・違うこと、⑥これからしたいことやこれから学ぶことの予想。

【評価】ルーブリックは3つの観点とし、それぞれ3段階で評価。Aは3点、Bは2点、Cは1点とし、最高点は9点。

「主体的に学習に取り組む態度」のルーブリック(例)

	解法のメタ認知	創意工夫	生活への応用
レベルA	平均の多様な求め方の特徴を理解して、文章と図、式を組み合わせで分かりやすく説明している。	間違いやすい箇所、正しく計算するコツ、難問紹介など、多様な観点で平均の学習内容を多面的に説明しようとしている。	平均の考え方が、どのような生活場面で応用できるかを、具体的な場面を紹介しながら分かりやすく解説している。
レベルB	平均の求め方の特徴を理解して、文章と図、式を組み合わせで説明している。	多様な例題を用いて、正しい解き方を分かりやすく説明しようとしている。	平均の考え方が、どのような生活場面で応用できるかを解説している。
レベルC	平均の求め方の特徴を理解して、式で分かりやすく説明している。	平均に関する基礎的な学習内容を整理して、分かりやすく説明しようとしている。	基本的な学習内容を整理しているが、生活場面への応用については説明していない。

※田中教授の提供資料を基に編集部で作成。

化を見取りやすいと思います。

学年団や教科部会の教員で分担し、夏季休業中に2、3単元分の課題とルーブリックを作成して、毎年少しずつ蓄積するとよいでしょう。また、実践後には、成果と課題を踏まえてルーブリックを見直すことが大切です。

——ルーブリックは、子どもに見せてもよいのでしょうか。

田中 ルーブリックは、子どもの明確な学習目標となり、学習に見通しを持てるようになるため、「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながる事が期待できます。ルーブリックによる評価を行う単元では、最初の授業で「これができることが目標だよ」と課題とルーブリックを子どもに示し、通知表の資料となることを伝えてください。そのために、ルーブリックは、子どもが理解できる表現で作成しておく必要があります。

また、文章を書くことが苦手な子

どもや、学習障がいのある子どもには、面談による評価に代えるなど、個別の配慮が必要です。

定期考査の見直し

記述式問題の定期的な出題で指導と評価の一体化を図る

——研修会では、記述式問題の実施を勧められているとうかがいました。

田中 「主体的・対話的で深い学び」で「思考力・判断力・表現力等」を養う授業は、多くの学校で実施されつつあります。ところが、定期考査で知識を問うだけでは、指導は評価につながらず、子どもは授業に真剣に取り組みません。資料を読み取って分かることや自分の考えを書くといった記述式問題を、学期に1回でも出題し、指導と評価の一体化を図ることは、資質・能力の育成において重要です。

——作問のポイントはありますか。

田中 解答には、字数制限を設け、「下記の3つのキーワードを使うこと」などの条件をつけるとよいでしょう。条件があることで、ルーブリックでは、「条件を3つとも満たせば10点」など、判断基準を明確に設定することができます(図5)。

採点後の返却時には、子どもが評価の観点を理解し、授業での見通しを持てるようにするために、ルーブリックの各レベルの解答例を示します。保護者に「思考・判断・表現」が問われていることを理解してもらうためにも、定期的に実施したいものです。

学習評価のマネジメント

学習評価の年間計画で校内の足並みをそろえる

——特定の時期に課題や記述式問題が集中すると、子どもにとって負担になりませんか。

田中 ルーブリックによる評価や定期考査の記述式問題は、学校全体で推進してほしいですが、子どもの負担を考慮し、いつルーブリックによる評価を行うのか、記述式問題をどの定期考査で出題するのかという学習評価の年間計画を教科ごとに作成し、実施時期を調整することが大切です。

例えば、年度当初に教科部会で年間計画(図6)を立て、5月の連休明けに校内研修を実施し、課題を出す時期が他教科と近かつたらずらすなど、学年や学校全体で調整する方法が考えられます。研修は、他教科の評価方法を学び合う機会にもなり、異動してきた教員も含め、学校全体で評価の足並みをそろえることも期待できます。また、年間計画を子どもに配付すれば、子どもが学習計画を立てる際の参考にできます。

授業や学校行事などの教育活動に関するカリキュラム・マネジメントは、既に実施している学校が多いと思います。その次の段階として、学習評価のマネジメントに着手してみたいかがでしょうか。

教育委員会の支援

ルーブリックを見せ合う研修会で、客観性を保つ

——教育委員会から学校へどういった支援が望まれるでしょうか。

田中 ルーブリックによる評価は、国の研究指定校等で既に実践されています。教育委員会は、各校が自校の状況に応じてルーブリックによる評価を実施できるよう、先進事例や、主要教科のルーブリックの例、評価の仕方の手順を示していきましょう。

評価時期終了後に、複数校の同じ教科の教員が集まり、自校のルーブリックと各評価レベルの代表作品を見せ合う研修会の実施もお勧めです。

図5 定期考査の記述式問題のルーブリック(例) 中学3年生 国語科「意見文」

	知識・技能の活用	条件1の充足	条件2の充足
レベルA	意見文の書き方の学習モデルをしっかりと活用して、科学的な事実と根拠が明確な文章になっている。	字数や文頭で使うキーワード、接続詞の使い方に関する条件をしっかりと守って書いている。	問題文から引用した箇所の内容と、自分の主張点の内容が明確に関連づけられて論旨が明快である。
レベルB	意見文の書き方の学習モデルに沿って書かれているが、理由づけや根拠にあいまい性がある。	字数やキーワードの使い方の条件は守れているが、接続詞の使い方があいまいである。	引用文と自分の主張点が明確に関連づけられていないが、論旨は明快である。
レベルC	意見文の書き方の学習モデルを活用できておらず、理由づけや根拠にあいまい性がある。	条件1のカテゴリに入る要素が十分に守られておらず、主張点が不明確である。	引用文と自分の主張点との関連性が不明確であり、意見文の中の論旨が明快になっていない。

期末の「思考・判断・表現」の評価観点の得点に、このルーブリックの判断結果を点数化し、部分点として組み入れる。
※田中教授の提供資料を基に編集部で作成。

図6 学習評価の年間計画 中学1年生 国語科(例)

● 評価方法・実施単元等の年間計画

評価の観点	評価方法	実施時期	実施単元	配点
知識・技能	ペーパーテスト(穴埋め、選択肢、抜き書き)	1学期	全単元(授業中ミニテスト、単元末)	各10点 中間100点 期末80点
		2学期	定期考査(中間2回)	
		3学期	定期考査(期末3回)	
思考・判断・表現	ペーパーテスト(記述式活用問題・解答類型による採点)	1学期	期末考査(大問1つ)	10点
		2学期	期末考査(大問1つ)	10点
		3学期		
	ルーブリックによる作品評価	1学期	「説明文を書こう」説明文800字	10点
		2学期	「意見文を書こう」意見文800字	10点
		3学期	「社説を書こう」社説800字	10点
パフォーマンス評価	1学期			
	2学期	「分かりやすく伝えよう」3分間スピーチ	10点	
	3学期			
主体的に学習に取り組む態度	説明文作成過程解説文	1学期	「説明文を書こう」解説文400字	10点
	意見文作成過程解説文	2学期	「意見文を書こう」解説文400字	10点
	社説作成過程解説文	3学期	「社説を書こう」解説文400字	10点

● 評価カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 1学期中間・期末考査			第1週	第1週								
2 2学期中間・期末考査							第2週		第1週			
3 3学期期末考査											第4週	
4 記述式活用問題				期末中					期末中			
5 ルーブリックによる作品評価			第2週					第2週			第2週	
6 パフォーマンス評価									第2週			
7 作成過程解説文			第2週				第3週				第2週	

※田中教授の提供資料を基に編集部で作成。

自校の評価方法を客観視でき、評価方法の改善につながります。小規模校では校内に教科担当者が1人ということもありますから、他校との交流は評価が自己流に陥ることを防げま

す。地域内の学校間で判断基準の標準化を図るためにも、ルーブリックを見せ合うのは効果的です。学校間の足並みがそろろうよう、教育委員会が支援をしていただければと思います。